



一般社団法人 日本LD学会

# 会 報 第 73 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒320-0043 宇都宮市桜 3-1-6 吉田ビル 2F  
TEL.028-666-0533 <http://www.soc.nii.ac.jp/jald/>

## 主な記事

<特集>

「ライフステージを通じた支援」

<連続講座>

・青年期・成人期～就労における支援①

大学における取り組み

・幼児の個別の指導計画③

代議員選挙開票結果のご報告



## 「この道は」

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

梅 田 真 理

今自分が歩んでいるこの「道」は、どこから始まったんだろうと考えることがある。

始まりはあるお子さんとの出会いであった。その子は、テストでは良い点を取るが友だちとうまく付き合えず、よく大きな声で泣いていた。独特の感性をもち、絵や詩は得意で不思議な魅力をもつ作品を仕上げるが、口頭での説明を十分理解できず、同じことを何度も質問にきた。教員になったばかりの私は、通り一遍の説明を繰り返し、「もう、何回言ったら分かるの!」と声を荒げることもあった。「なぜ、同じことを何回も聞くのか?」「勉強はできるのに、どうして赤ちゃんのように泣くのか?」理解できず、悩むばかりであった。同僚に相談しても「あの子はそういう子だから」という返事、お母さんとも何度か話し合ったが、心配なことを確認できただけで、有効な手段は浮かばなかった。

結局担任として十分な対応も正しい理解もできないまま、転勤となった。離任式に挨拶に来てく

れたお母さんから、「先生に相談できて良かった。うちの子のことを心配してくれてうれしかった」という言葉を聞いた時、何もできなかったことが悔やまれ、思わず泣いてしまった。申し訳なさでいっぱいだった。

その後通級指導教室の担当となり、学習障害等のあるいろんなお子さんに出会い、勉強する機会にも恵まれた。学べば学ぶほど「あの時自分に知識があれば…」と後悔の念が浮かんできた。その思いが、目の前の子どもたちへの指導の原動力であったと今は思う。

発達障害について広く知られるようになってきたが、まだ十分とは言えない。保護者の方から、昔の私のような対応をしている先生の話も聞くこともある。長くこの道を歩いているように思うが、まだまだ先は長いのである。昔出会ったあの子に、「今は君のような子どもたちが、先生や友だちに十分理解されて、楽しく過ごしているよ」と言えるように、精一杯がんばっていきたいと思う。